R81102　落五小　朝礼講話⑪

【児童への話】
いよいよ 11 月に入りました。11 月は「霜月（しもつき）」と呼ばれており、その由来は、「霜が降りる月」とも、「秋の収穫物を食べる月という意味の食物月（をしものつき）」とも言われています。百人一首でいうと、『きりぎりす 鳴くや霜夜の さむしろに 衣かたしき　ひとりかも寝む』の時期です。秋が最も深まり、今週７日の「立冬」からは、暦の上でもう冬となります。去りゆく秋を惜しみつつ、冬に向けてしっかりと力を蓄える１週間にしていきましょう。

さて今日は、「江戸しぐさと優しい気遣い」について、お話しします。
皆さんは、江戸しぐさを知っていますか？今から 400 年以上前に始まった江戸時代、人の数がとても多かった町の中で人々が心がけていたと言われる、公衆マナーのことです。今回は、道の歩き方に関する、ふたつの江戸しぐさをお話しします。
ひとつ、「七三（しちさん）の道」です。
道を歩くときには、誰もいなくとも真ん中を歩くのではなく、道の端の３割が自分の歩く場所で、あとの７割は他の人の歩く場所として空けておくというマナーです。道の幅を 10 として、自分の分は端の３つまでにしておけば、他の人が通行するのに困ることはない、という考え方ですね。誰に見られているでもなく、常に誰かのことを気にかける、という優しい気遣いの考え方です。
ふたつ、「肩引き」です。
道で人とすれ違うときには、相手が通りやすいようにグッと肩を斜めに引き、身体を傾ける姿勢をとるというマナーです。少しでも道を広く使えるように、また、相手のことを思いやっていますよという気持ちが伝わる、こちらもとても優しい気遣いの考え方です。

今、校長先生は「七三の道」と「肩引き」という、ふたつの江戸しぐさを皆さんに話しました。では、皆さんが道を歩いているときのことを思い出してください。道幅いっぱいに友達と話しながら歩いていたり、人とすれ違うのにそのまま歩いていたりすることはないでしょうか？普段の自分を振り返ってみてください。かしこい落五小の皆さんなら、江戸しぐさのような優しい気遣いができるようになると思います。たくさんの人が生活するこの町を、お互いに少しの優しさ、気遣いができ、皆が気持ちよく過ごせる場所にできるよう、普段から心がけていきましょう。「落五の子は道の歩き方が上手だね」と、地域の方に褒められる皆さんでいてください。今日は「江戸しぐさと優しい気遣い」についてお話ししました。

【本講話について】
　私は常々、「他の人からの見られ方」を意識して行動できる子どもを育てたいと思っています。よく使われる「みっともない」という言葉は、「見とうもない」が変化してできたものです。他の人が見たくもないと思う姿を自分がしていないか、いわゆる「恥を知ること」を意識できれば、自ずと子どもの言動は変わっていくものであり、小学校段階での意識のもたせ方が大事だと思っています。
　自分を常に内省し、よりよい言動を選ぶことができる子どもたちを育てるためには、大人の率先垂範に加え、子どもの失敗をかばい過ぎず、その結果を十分に味わわせることが必要です。適切に叱られ、失敗の責任をとらせることは、子どもの心の大きな成長につながります。保護者、地域の皆さんの力添えを、どうぞよろしくお願いします。